

今回の流行では、母親と2名の姉妹とともに1月に中国の福建省に旅行した9歳の少年が2月9日に発症し、2月12日に香港の病院に入院した。少年は回復し、病状は安定している。患者の家族に同様の症状が認められ、少年の妹と父親が死亡した。少年の母親も発症したが、回復した。少年以外の家族もインフルエンザA/H5N1に感染していたかどうかは、まだ不明である。これらの疾患の原因を究明するために、医学的および疫学的調査が香港で実施されている。結果は数日で判明するであろう。その感染源を確定するための調査は遂行中である。

WHOは流行の調査において、香港と中国の保健当局と密接に協力している。WHO世界インフルエンザサーベイランスネットワークが警戒態勢を敷いた。

- 2) IDWR Vol.5(7), p.11-11, 2003より: WHO/CSR 2003年2月20日一更新、抄訳

2月20日現在、香港特別行政区（以下香港と略す）の衛生署は、2月17日に香港の病院で死亡した33歳男性が、インフルエンザウイルスA/H5N1に感染していたことを確認した（既報参照）。男性から採取された鼻咽頭吸引検体が香港衛生署ウイルス部で検査され、インフルエンザウイルスA/H5N1陽性であった。

この男性は、今回の香港での流行でインフルエンザウイルスA/H5N1が確認された2例目の患者である。この男性は、昨日検査でインフルエンザウイルスA/H5N1陽性が判明した9歳男児の父親である。両名とも1月に中国福建省へ旅行した。福建省に旅行したこの家族の他の2名も体調を崩している。9歳男児の母親は現在完全に回復し、8歳の妹は福建省で2月4日に死亡した。

香港衛生署は流行の感染源を明らかにするため、検査と疫学調査を継続している。また、遺伝子型などの詳細な検査が行われている。香港衛生署によると、過去数週間にインフルエンザの活動性の異常な上昇は検出されていない。

WHOは、北京と香港の衛生署と密接な連絡を取っている。WHO世界インフルエンザサーベイランスネットワークは警戒態勢を取っており、同ネットワーク加盟の各国インフルエンザ

センターや他のメンバーに対し、検査診断に必要な追加試薬を用意している。

### トピックスIII

#### 『肺炎球菌ワクチン海外情報』

#### 肺炎球菌結合型ワクチン（7価）の接種について、2002年—カナダ

IASR Vol.23 (2) p42-42, 2002より:

Canada CDR, Vol.28, ACS-2, 2002抄訳

カナダの予防接種委員会 (NACI) は以前より、髄膜炎、菌血症、敗血症、肺炎などの侵襲性肺炎球菌感染症 (IPD) のリスクが高い2歳以上の小児（ハイリスク児）に対して、23価多糖体ワクチン接種を推奨していた。ただし、このワクチンは2歳未満の小児に対しては抗体産生能が低い。新しく開発された7価結合型ワクチンは2歳未満の小児に対して接種しても安全で、IPDの予防効果も高いことが確認された。すべての2歳未満の小児に対して2、4、6、12~15カ月時の4回接種が勧められている。2歳以上5歳未満のハイリスク児に対しては、7価結合型ワクチン、23価多糖体ワクチンの接種歴に応じて、23価および7価ワクチン追加接種が勧められている。5歳以上のハイリスク児に対しては従来通り、23価多糖体ワクチン接種が勧められている。

#### 人工内耳植え込み者に対する肺炎球菌ワクチン、2002年—米国

IASR Vol.23 (11) p294-294, 2002より:

CDC, MMWR, 51, No.41, 931, 2002抄訳

米国で2002年10月4日までに、人工内耳植え込み者における髄膜炎が53例報告された。細菌培養検査が実施された23例中16例が肺炎球菌によるものであった。

肺炎球菌ワクチン接種は、肺炎球菌による髄膜炎罹患のリスクが高い人に対して推奨されている。予備的な調査結果により、人工内耳植え込みは肺炎球菌による髄膜炎のリスク因子であることが示唆されたため、現在、人工内耳植え込み者全員に対して、年齢に応じた肺炎球菌ワクチン接種（7価結合型ワクチン、あるいは23価多糖体ワクチン）が推奨されている。

## § 第7回日本ワクチン学会学術集会のお知らせ

第7回日本ワクチン学会学術集会（会長：藤田保健衛生大学小児科 浅野喜造）を平成15年10月18日（土）、19日（日）の2日間、名古屋国際会議場において開催いたします。今回は一般演題（抄録原稿受付締切；平成15年5月31日必着）のほか、特別企画として下記の会長講演、教育講演、シンポジウムを考えております。皆様の多数のご参加をお願い申し上げます。

### 特別企画

- 1) 会長講演 座長：山西弘一（大阪大学）  
「VZVの感染予防」  
浅野喜造（藤田保健衛生大学）
- 2) 教育講演1 座長：神谷 齊  
（国立療養所三重病院）  
「Are vaccines safe?」  
Ofit PA（The Children's Hospital of Philadelphia）
- 3) 教育講演2 座長：白木公康  
（富山医科薬科大学）  
「Combined vaccines, successes and lessons learned」  
Bogaerts HH（Glaxo SmithKline）
- 4) シンポジウム1：「近未来のワクチン」  
座長：谷口孝喜（藤田保健衛生大学）  
倉田 毅（国立感染症研究所）  
・ワクチン開発と免疫学  
吉開泰信（九州大学）  
・HSVの臨床応用  
西山幸廣（名古屋大学）  
・経口ワクチンの開発  
保富康宏（三重大学）
- 5) シンポジウム2：「Commonな感染症の現状と予防接種」  
座長：岡部信彦（国立感染症研究所）  
加藤達夫（聖マリアンナ医科大学）  
・予防接種の経済効果  
大日康史  
（大阪大学社会経済研究所）  
・世界及び日本の状況  
谷口清州（国立感染症研究所）  
・麻疹根絶に向けて一わが国の現状と課題—  
尾崎隆男（昭和病院）  
・インフルエンザワクチンの今後  
森島恒雄（名古屋大学）

---

## § 2002年度第2回日本ワクチン学会理事会議事録

日 時：平成14年11月28日（金）16：30～18：00

会 場：千葉市ホテルサンガーデン

出 席：浅野喜造、荒川宜親（推薦理事）、岡 徹也、神谷 齊（理事長）、清野 宏、武内可尚、富樫武弘、橋爪 壯、廣田良夫、堀内清、山西弘一各理事、山崎修道監事

記 録：庵原俊昭（理事長施設）、中川庸幸（日本学会事務センター）

欠 席：岡部信彦、加藤茂孝、喜田 宏（推薦理事）、倉田 毅、高橋理明、植田浩司監事

### 報告および審議事項

#### 1. 一般経過報告

神谷理事長から平成14年度活動状況、会員数の現状等の一般経過が報告された。

#### 2. 第6回日本ワクチン学会学術集会について

堀内学術集会会長から、学術集会のコンセプト、最終準備状況等の報告があった。

#### 3. 第7回日本ワクチン学会学術集会について

浅野次期会長から、会期（平成15年10月18日（土）、19日（日）の両日）、会場（名古屋国際会議場）、学術集会スタッフ（事務局長；須賀定雄（藤田保健衛生大学小児科）、プログラム委員長；庵原俊昭（国立療養所三重病院）、プログラム副委員長；吉川哲史（藤田保健衛生大学小児科）など）、学術集会の内容案等について報告があった。

#### 4. 第8回日本ワクチン学会学術集会について

前回の理事会で推挙された富樫理事から、平成16年10月頃に札幌で行う予定等の報告があった。

#### 5. 平成14年度会計中間報告について

岡担当理事から報告があり承認された。

#### 6. 平成15年度収支予算案について

岡担当理事から報告があり承認された。同時に学術集会補助金の増額が承認された。

#### 7. ニュースレターの発行について

岡部担当理事欠席のため、岡部理事から依頼さ

れたニュースレター第6号の内容についての提案が中川事務担当からあり承認された。平成15年4月に発行する予定である。

#### 8. 学会誌の発行について

岡部担当理事欠席のため、神谷理事長から前回理事会における学会誌発行についての経過報告があった。その後の検討で、学会の存在を広くアピールするためにもホームページを立ち上げることが提案された。理事長から岡部担当理事にホームページの原案作成を依頼することになった。

#### 9. その他

##### ① 日本小児科学会認定医制度における研修学会申請について

神谷理事長から、平成14年10月に日本小児科学会へ認定研修学会としての申請書を提出し、次の日本小児科学会理事会で承認される予定になっているとの報告があった。

##### ② 生物製剤認定にかかる審査制度について

神谷理事長から現状の審査制度の問題点が提起され検討された。理事会のメンバーから小委員会を作成し、審査制度の段階に応じた問題点を整理し、問題点に応じた要望書を他の関連学

会と協力して厚生労働省に提出する案が承認された。なお、小委員会は、神谷理事長、荒川理事、岡理事、岡部理事、富樫理事、橋爪理事、堀内理事、田代元理事（理事長推薦）で構成される。

##### ③ ポリオワクチンの進展状況について

橋爪理事から日本ポリオ研究所が製造承認申請中の不活化ポリオワクチン(IPV)の進展状況について報告があった。

##### ④ 国際ワークショップ“Vaccination at the beginning of the 21st century”の後援について

神谷理事長から、メリュー財団により2003年7月11-13日に東京で開催されるワークショップの概要が紹介され、日本ワクチン学会が後援することが承認された。

##### ⑤ World Congress on Vaccines and Immunology (WCVI) の後援について

中山哲夫(北里生命科学研究所教授)氏が2004年9月30日-10月3日に筑波コンベンションビュローで開催するWCVIを、日本ワクチン学会が後援することが承認された。

## § 第6回日本ワクチン学会総会議事録

日時：平成14年11月30日（土）13：10～13：40  
場所：千葉市文化センター「アートホール」  
記録：庵原俊昭（理事長施設）、中川庸幸（日本学会事務センター）

#### 報告及び審議事項

会則にしたがい、堀内 清第6回日本ワクチン学会学術集会会長が議長となり報告事項、議事等が進行された。

##### 1. 一般経過報告

神谷理事長から、平成14年度活動状況、会員数などの一般経過が報告された。

##### 2. 議事

###### 1) 平成13年度決算

岡部担当理事から平成13年度決算が報告され、

その後山崎監事から会計監査が報告され、審議の結果原案が承認された。

###### 2) 平成15年度予算案

岡部担当理事から平成15年度予算案が提案され、審議の結果原案が承認された。

##### 3. 第8回学術集会会長の推挙

神谷理事長から、第8回学術集会会長に富樫武弘理事（市立札幌病院小児科）が推挙され、承認された。

##### 4. 次期会長挨拶

次期（第7回学術集会）会長の浅野喜造理事（藤田保健衛生大学小児科教授）から挨拶があり、今回の会期が平成15年10月18日（土）、19日（日）の両日、名古屋国際会議場での開催が案内された。

以上

◇ 理事選挙に伴う会員名簿の発行について（重要） ◇

現在の理事の半数が、本年12月末をもって任期満了となりますので、8月頃に理事選挙を行う予定です。それに伴いまして、2003年版会員名簿の作成を行います。

会員各位におかれましては、同封の「返信ご記入上の注意」をご参照の上、名簿調査用紙に記載されている会員登録情報のご確認をお願い致します。

追加や訂正がございましたら、下記までご修正の上、ご返送下さい。

ご協力の程、何卒、宜しくお願い申し上げます。

<変更連絡先・本件に関する問合せ先>

〒113-8622 東京都文京区本駒込 5-16-9

(財) 日本学会事務センター

日本ワクチン学会 会員係

FAX : 03-5814-5825 / Phone : 03-5814-5810

---

日本ワクチン学会ニュースレター 第6号

2003年4月21日発行

発行人 日本ワクチン学会

日本ワクチン学会事務局

〒514-0125 三重県津市大里窪田町357番地

国立療養所 三重病院

日本ワクチン学会理事長 神谷 齊

学会事務局 庵原俊昭

TEL : 059-232-2531 / FAX : 059-232-2950

<入退会・住所変更・年会費>

〒113-8622 東京都文京区本駒込 5-16-9

財団法人 日本学会事務センター 日本ワクチン学会会員係

TEL : 03-5814-5810 / FAX : 03-5814-5825

---